

布施だより

《 『寒いから気をつけて』 ～ 一通のお礼状から ～ 》

年末に地域の方より、心ホッコリの嬉しいお便りをいただきました。ご紹介いたします。

～ ～ ～ ～ ～

信里に住む者です。この 13 日(土)雪の降りきる夕方 6 時頃、道路を軽自動車で行き中、迂闊にもブロック塀に併設した U 字溝へ車の前後の両輪を落としてしまいました。人通りの少ない暗闇の寒空、なすすべもなく、ただオロオロしていました。そこへ通りかかったのが貴校の男子生徒さんでした。事情を話すと「寒いから気をつけて」と私を励ましてくれてから、直ちに母親を呼んでくれました。親御さんは電話のない私に代わり、車を引き上げるためにあちこち手配をしてくださいました。しかし土曜の夜、雪模様の中では、レッカー車がすぐ間に合うはずがありません。そこで近所の人を呼んでいただき、無事車を引き上げることができました。二人の親子の連携と所作にただ感心するだけで感謝の気持ちを充分伝えられず別れた次第でした。77 年生きてきた私にとって今夜程人の心の暖かさ、有り難さを感じたことはありませんでした。彼のような中学生を育てていただいている篠ノ井西中学校に御礼の気持ちをお伝えしたいと考え、年末年始ご多用の折、失礼を承知の上、お便りした次第です。大変ありがとうございました。



～ ～ ～ ～ ～

若い人の心根がグンと伸びる瞬間というのは、このお手紙の中にあるように、周囲の困っている方に優しさを差し出せた時であり、そしてその差し出した優しさを認められた時なのでしょうね。私たち大人の大切な務めのひとつに、伸びようとしている若者の感性や所作やおずおずと差し出してくれた暖かな心持ちに、「ありがとう。よくやってくれた！」と感謝を返してやる必要があります。それは若者の言動をただ批判することよりも数倍の力をもっているはずで、私たち大人の一言・一言が、若者のしなやかで柔軟な優しさを伸ばす魔法の言葉です。

《 小さな親切 ～ 『十円玉』・『少しの勇気でつながる輪』 ～ 》

続けて、平成 26 年度「小さな親切作文コンクール」に入賞した 2 作品をお伝えします。

若い諸君は、様々な場所や出会いの中で、差し伸べられた親切を受け取り、今度は勇気を振り絞って優しさとして差し出そうとしてくれています。若い人たちからの、心暖まるクリスマスプレゼントです。



～ ～ ～ ～ ～

私は、今でもあの時のことをはっきりと覚えています。

去年の夏のことでした。私は友達と二人で善光寺へ行くために、坂道を上っていました。すると急にその友達が「あその柱まで競争ねっ。」と言って走って行ってしまいました。私は「嫌だな～」と思いながらも、全速力で坂を駆け上がりました。走っている途中、ズボンのポケットから何かが落ちた気がしましたが、気のせいだと思い、そのまま走り続けました。そして、もうすでに友達が待っている柱にたどりついた、その時でした。後ろから「すいませ～ん！」と女の子が叫びながら駆け上がってきました。その女の子は、私と同年か、少し年上ぐらいの人で、息を切らしながら「これ、落としましたよ。」と私に一枚の十円玉を差し出しました。私はとても驚きました。確かにポケットから何か落ちたような気がしましたが、まさか本当に落ちていたとは思いませんでした。そして、何よりもこの女の子は見ず知らずの私のために、たった十円を渡すためだけに、急な坂を走って上ってきてくれて、届けてくれました。そう思ったら感謝の気持ちで一杯になり、それと同時に何だか申し訳なくなりました。私が「いえ、全然大丈夫ですよ。」とニコッと笑って、また走ってきた道を戻っていきました。



このような出来事があって、私はいろいろ考えました。もしも、自分があの時の女の子の立場だったらどうしていただろうか。あの女の子のように、たった十円玉だけのために、わざわざ坂を上って届けに行っていたらどうだろうか。きっと、前までの私はできなかつただろうと思います。たった十円玉ぐらい いいよね、と見て見ぬふりをしていたと思います。ですが、あの女の子のお陰で、私はたった十円だけれど、なくさずに済みました。もし落とした物が十円玉ではなく、家のカギだったり、携帯電話のようなもっと大事な物だったりしたら、本当に困っていたと思います。でもあの女の子だったら落とし物が何であろうと、落とした人が誰であろうと拾って上げていたと思います。私もそんな、誰にでも親切にでき、感謝してもらえる人間になりたいです。

3年 宮坂 舞於さん 『十円玉』

～ ～ ～ ～ ～

ほんの小さなきっかけでそこに新たな出会いが生まれるかもしれない、と考えたことがあるだろうか？少し周りを見渡せば、その日一日を少しでも楽しくしてくれるような出来事は、どこにでも転がっているはずですよ。

先日、吹奏楽コンクールの県大会がありました。惜しくも県大会を逃した私たちは、ステージ係として椅子や譜面台の運搬を担当することになっていました。

いよいよ最後の演奏が終わって、譜面台を運び出している時、私はふと一つの譜面台にまだ楽譜が載っていることに気づきました。今演奏した学校の打楽器の人が置いていったのでしょうか。勿論すでにその学校の人たちは退場してしまっていていません。追いかけていくべきか迷いましたが、友達の「きっと今頃困っているよ。」の一言に背中を押され、届けに行くことを決意しました。

その時、その学校の人たちは写真撮影をされていて打楽器の人は見当たりません。どうしようかと思い、とりあえず近くにいるクラリネットの人に渡そうと思ったのですが・・・とにかく声を掛けづらいいです。大勢で固まって、大声で笑っています。それでも勇気を出して、「すみません。こ



れ打楽器の人忘れていったみたいなんですけど・・・。」と声を掛けたら、ひとりの女の子がそれを受け取り、「すみません。」と言ったあと、笑顔で「わざわざ届けていただいてありがとうございます。」と言いました。

その時の女の子の笑顔がとても清々しくて、椅子運びだけだった一日が、この出来事だけで何だかひどく充実した一日になったような気がしました。隣にいた友達も「何か、届けに行って良かったよね。」って、いかにも楽しそうに私に言い、私も全く同じ思いでした。

あの女の子と話した時間は本当にわずかなものでしたが、私はこれも一つの出会いの形だと思います。あの時、少しの勇気を出さずに追いかけていなかったら、また声を掛けていなかったらこの出会いはなかったでしょう。あの時の、ほんの小さな小さな勇気をつないだ輪は、ひょっとしたら今の私をほんの少しだけ変えているのかもしれない。思い出すと、暖かいもので胸が一杯になります。

きっと小さな親切の積み重ねは、その日一日を充実したものにするだけでなく、きっと人生そのものを味わい深いものに変えるでしょう。

3年 清水彩加さん 『少しの勇気でつながる輪』

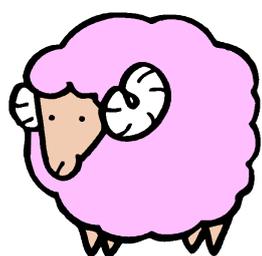
～ ～ ～ ～ ～

十数年前の新聞記事に掲載された、次のような文章を思い返します。

く 雪国に住んでいる方と話していて、はっと思わされることがあった。話題はその人の小学校2年生の長男の学校生活だ。学校へ通う子ども達が遅刻しそうに焦って歩いている。昔なら、自転車で通う教師は遅れそうな子どもをきつく叱らなかった。自分も息が切れていたから「おう、頑張れ。早く行こう。」と、ハハハ言いながら声をかけた。昨今、自動車で通う先生たちは吐く息が白くなることもない。互いの体の様子を感じることもなく、子ども達を追い越してゆく。その違いは学習プリントにも表れる。かつて教師は、カリカリと音を立ててガリ版を切り、プリントを作った。原紙を切り、何十枚か刷り上げると、教師の手は汚れ、疲れる。そうして作った課題は、子どもが疲れずに学習できる分量であった。パソコンを使えば、短い時間に驚くほどの量のプリントが作れる。子どもに適した速度を超えることになる。じっくり、ぼんやり考える時間が、育ち盛りの子には要る。噛み砕いて消化する時間が足りない、詰め込まれたものは、何の栄養にもならない。・・・



少しでもじっくり、ぼんやり考える時間を生徒たちが年末・年始にもてるよう、そうしてたっぷり豊かな滋養が体と心に身につくよう願いつつ、2014年が師走を迎えようとしています。



健康で安全な年末年始休業になるよう、ご指導よろしく願いいたします。

1年間、篠ノ井西中学校 学校運営にご理解とご協力を賜り本当にありがとうございました。来る1年もよろしく願いいたします。

良きお年をお迎えください。